

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人信愛会		
事業所名	グループホームたちばな		
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山 2 4 0 7 番地 3 (電 話) 0985-30-9033		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町 2 番 2 2 号		
訪問調査日	平成21年10月15日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】（平成21年9月23日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成12年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	19 人	常勤19人, 非常勤0人, 常勤換算6.3人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1～2階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成21年9月23日現在)

利用者人数	26 名	男性 1 名	女性 25 名
要介護1	5	要介護2	10
要介護3	8	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 87 歳	最低 69 歳	最高 97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高信会辰元病院、児玉歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

30年以上前に病院や介護老人福祉施設が開設し、介護老人保健施設、デイサービス、ケアハウス、グループホーム、認知症デイサービスなどが敷地内に建つ大規模法人施設であるが、周辺は施設も圧倒されるような、ビニールハウスが並ぶ広大な田園に囲まれている。地域に開放された施設として夏祭りや奉仕活動を通じた交流が続いている。グループホームの利用者も、地区の敬老会に参加している。利用者や家族が毎年楽しみにしている「ふれあいデー」や「外食」は、新型インフルエンザ対策で変更となったが、ミニドライブや他のグループホーム訪問など、利用者が楽しみとしている外出が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進委員の構成について、各ユニットごとに家族代表を加えることで、利用者の立場に立った多くの意見が出され検討されるようになった。家族への報告など、記録の確認に関する様式が改善された。その他の記録類も検討され、終末期の同意書や気づきノートが新たに活用されている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全員が自己評価表に記入し、各ユニットごとのリーダーがまとめ、作りあげられている。自己評価や外部評価を生かし、更に高い目標に取り組んでいる。改善項目についても、職員全体で話し合いが持たれ、改善や新たな取り組みが行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 昨年度の運営推進会議の委員の構成を検討した結果、各ユニットごとの家族代表を委員に増員したことで、より多くの利用者の立場に立った家族の意見が会議で検討されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 来訪時に家族からの意見や要望を聴く機会があるが、今年から家族へのアンケートの実施、事例検討会や運営推進会議への家族参加で家族の意見を引き出し、運営に反映させる取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 法人全体の夏祭りには、多くの地域住民が参加している。地区の老人会が奉仕作業に来訪し、地区の敬老会には利用者が参加して地域の人々との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した事業所独自の理念を作り、各ユニットへの掲示の外、会報や地域、家族の参加する会議や来訪の機会をとらえ、理念の浸透が図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を基本に、ユニット独自の理念を作っている。毎日の日勤業務開始時に全員で唱和して理念の共有を図り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	多くの地域住民が参加する法人全体の夏祭りや地区の老人会による施設内の奉仕作業時、また、地区の敬老会に利用者也参加するなど地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員それぞれが自己評価を行い、各ユニットのリーダーがまとめ作りあげている。自己評価や外部評価を生かし、更に高い目標に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の外部評価の検討結果、各ユニットごとの家族代表を委員に増員したことで、多くの家族の意見が会議で検討されている。会議内容は定例研修会で、管理者より職員に報告され、サービスの向上に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、定例で開催される福祉関係者の高岡ネットワーク会議には、市福祉課や民生委員も参加しており、意見交換や必要な助言が得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や電話による随時報告の外、介護計画の見直しなどの検討会には対象者家族も参加し、よりきめ細かな情報交換が行われるようになった。ユニットごとの会報「ほほえみ」を年2回、施設合同の機関誌「しんあい」を年1回発行し、情報提供がなされている。預かり金は小遣い帳にして家族の確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談対応の窓口は設定されているが、苦情や意見が聞き取れない状況であるため、今年、家族へのアンケートや事例検討会、運営推進会議への家族参加の折に、家族の意見を引き出し、運営に反映させる取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員が、どの部署でも専門性が発揮でき、非常時には柔軟に対応できるように、職員の希望も考慮した異動が行われている。その中で利用者とのなじみの関係の構築のため、管理者やリーダーが利用者との間に入りダメージを防ぐ役割を担っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当者による月2回の内部研修や、希望や段階に応じた外部研修が業務として受講できる体制にある。その他、資格取得の希望者には、勤務配置等の考慮がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者も一緒に他グループホームとのお花見交流会や、ドライブ途中の訪問を利用した交流が行われている。また、グループホーム連絡協議会のブロック研修や認知症チームケア推進研修の成果をサービスの質の向上に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決定すると、職員が訪問し本人や家族の希望を聞き取り、個人の状況によっては、デイサービス、ショートステイ、家族の同宿など意向をくみ取り、いきなりの開始は行わず、徐々になじむように気まますごさ戸惑い時には声かけし見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の培われた経験や過去の記憶を引き出しながら、尊敬と思いやりをもってともに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「気づきノート」に利用者の発する言葉を記録することで、断片的な言葉のつながりや頻度などから、利用者の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	昨年からカンファレンスに家族が参加することで、双方で新たな情報が把握できた。また、介護計画の必要性や利用者に対するホームの姿勢が、より具体的に家族に理解され、今まで以上に家族との関係が良好になり、利用者にもいい状況をもたらしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングと3か月ごとの見直しが定期的実施されている。状況の変化時には、そのつどの見直しと新たな計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年開所した認知症デイサービス参加者との交流や、利用者の受診時に家族と同行し、医師へホームでの情報提供を行うとともに、診断結果を一緒に聞くことで利用者の不安の軽減に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院やその他の専門医療機関に、利用者や家族の希望及び主治医の勧めにより受診できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、法人施設も含めて話し合いがなされ、希望に沿った場所で看取ることが共有されている。ホームでは、終末期で入院した利用者が退院し、ホームに戻り、1年を要したが回復した例があり、職員の自信となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレや浴室はカーテンで見えない配慮がされている。訪問日の昼食中に床へのつば吐きやオムツはずしの利用者に、プライバシーを損なうこともなく、同席者も気づかないような対応が、ごく自然に行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用開始間もない時や不穏状態の利用者には寄り添い、安定している場合には利用者のペースを大切にし見守ったり、声かけするなど柔軟なケアにけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にそのつど献立を知らせ、食事への期待や関心を持たせ、味つけや食材を話題にした楽しい食事の雰囲気作りに努めている。調理の準備、配膳や片づけなど、利用者のできる部分を見つけ職員とともに作業している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は週2回程度ではあるが、希望や失禁などには柔軟に対応している。コミュニケーションを図りながらゆったりと入浴してもらっている。身体状況により入浴がシャワーや清拭に変更になった場合には家族に報告して了解を得ている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物やおしぼりたたみ、掃除、食事の準備など利用者個別の役割がある。趣味の塗り絵やホームの飼い犬とのふれあいを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が法人内の他事業所に業務で行き来する際に同行したり、花の水やり、犬の餌やり、散歩や買い物など、こまめな外出の機会が作られている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけるへい害を職員は認識している。外出や帰宅時には職員とともに大きな声で「行ってきます、ただいま」のあいさつを利用者が習慣化できるように取り組んでいる。玄関に鈴をつけ、出はいりに気配りをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震の避難訓練を毎月実施し、消防団から指導を受けている。併設施設職員の協力、連絡網も周知されている。避難訓練を理解できない利用者が多いため、スプリンクラーや2階からの動線を検討している。 (スプリンクラーは設置の見込み)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の献立を基に、利用者個々の身体状況に応じて食事形態を変え必要量が摂れるよう工夫している。水分量が不足しないよう汁物やお茶の摂取に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、不快な音や光、臭気もなく心地よく、調査訪問時はそれぞれ好きな場所でくつろいでおられた。円形状に居室が配置しており、居室から出ると中央のホールがくつろぎの場となっている。家族からの季節の花が絶えることなく飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、好みの物や使い慣れた物を持ち込んでもらうよう家族に働きかけている。仏壇、子供や孫の写真、寝具などの使い慣れた大事にしている物が置かれていた。訪室時、それらについて思い出や昔を懐しみ、嬉しそうに語られる姿が印象的であった。		

※  は、重点項目。